

第1回 熊本県産アサリブランド再生協議会 資料

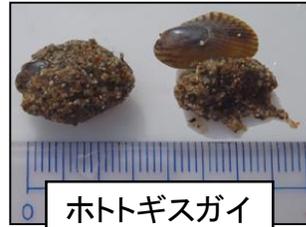
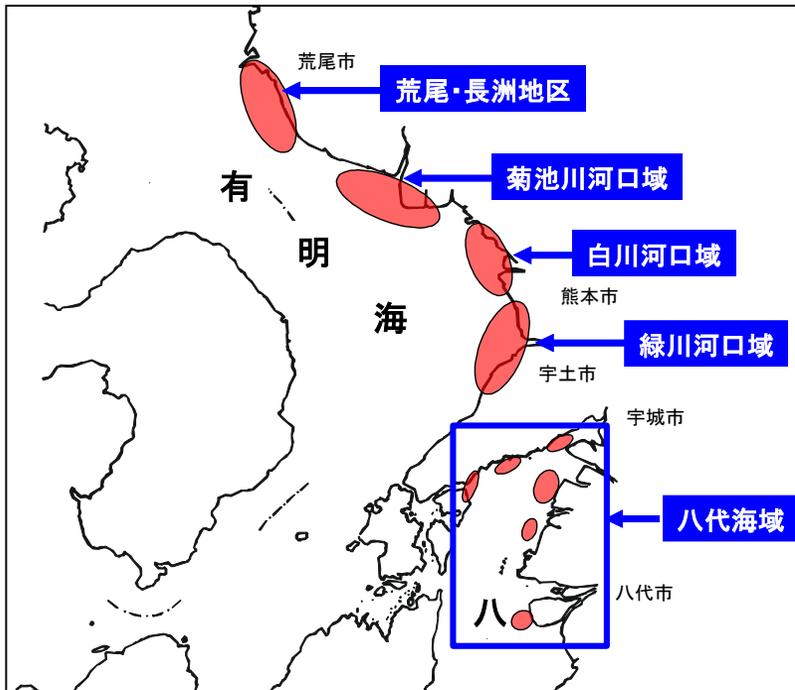


緑川河口域でのアサリ漁獲状況(平成15年(2003年))

令和4年(2022年)2月22日(火)

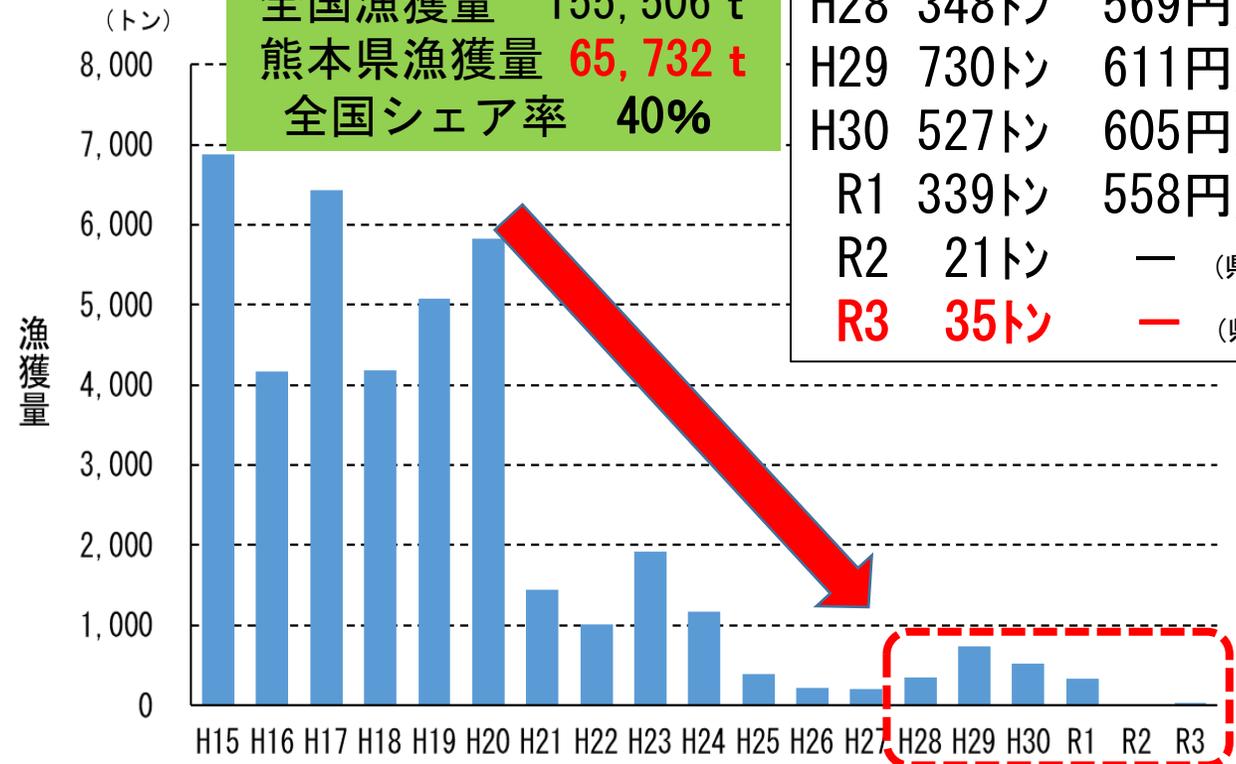
アサリ資源について

【本県の主なアサリ漁場】



H21 緑川河口域

昭和52年アサリ漁獲量
 全国漁獲量 155,506 t
 熊本県漁獲量 **65,732 t**
 全国シェア率 **40%**



	(漁獲量)	(平均単価)
H28	348トン	569円/kg
H29	730トン	611円/kg
H30	527トン	605円/kg
R1	339トン	558円/kg
R2	21トン	— (県調べ)
R3	35トン	— (県調べ)

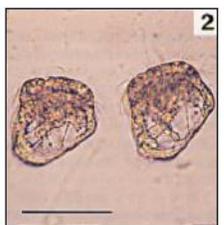
農林水産統計(H15~R1)、水産振興課調べ(R2~R3)

- ① 本県の近年のアサリ漁獲量は、H15年の6,877トンをピークに大幅に減少し、R3年は35トン。
- ② H21年以降の減少要因として、ホトトギスガイの大発生による生息環境の変化や、H24年、H28年及びR2年の災害の影響などがある。
- ③ 平均単価(円/kg)は、H15年の295円から上昇傾向にあり、近年は600円前後で推移。

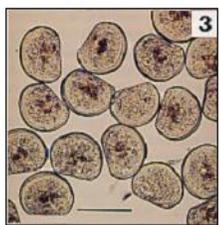
アサリ資源について

【アサリの成長過程】

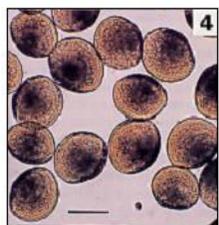
浮遊幼生期(約1ヶ月)



トロコフォア幼生



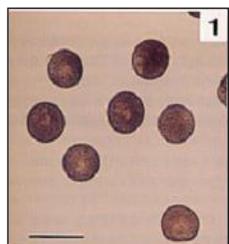
D状期幼生
(0.1~0.11mm)



アンボ期幼生
(0.13~0.14mm)



フルグロウン期幼生
(0.18mm)



受精卵
(0.06~0.07mm)



漁獲開始(殻幅12mm以上)



着底稚貝
(殻長0.2~0.23mm前後)

着底

約1年半
から2年

産卵

【アサリの生態】

- ◆ 主な産卵時期は、4月から5月の春と、10月から11月の秋に産卵のピークを迎える。
- ◆ 殻長20mm以上で産卵できるようになり、殻長により200万個~600万個を産卵する。
- ◆ 成長の早い緑川では、秋に発生したアサリは翌年の春から成長を始め、翌々年の春以降、漁獲できる大きさに成長する。



- ① アサリは雌雄異体で卵と精子を放出し、受精後は浮遊幼生期間を経て干潟に定着する。
- ② 県内漁場のアサリは、漁獲できる大きさに成長するのに、**約1年半から2年程度かかる。**

アサリの流通について

【アサリ漁獲方法】

ガンヅメ



ジョレン



腰巻ジョレン



荒尾・長洲地区



菊池川・白川河口



緑川河口

【漁獲から出荷まで】



漁獲



ユリメ選別



ガタ選別

全国の消費地へ



出荷

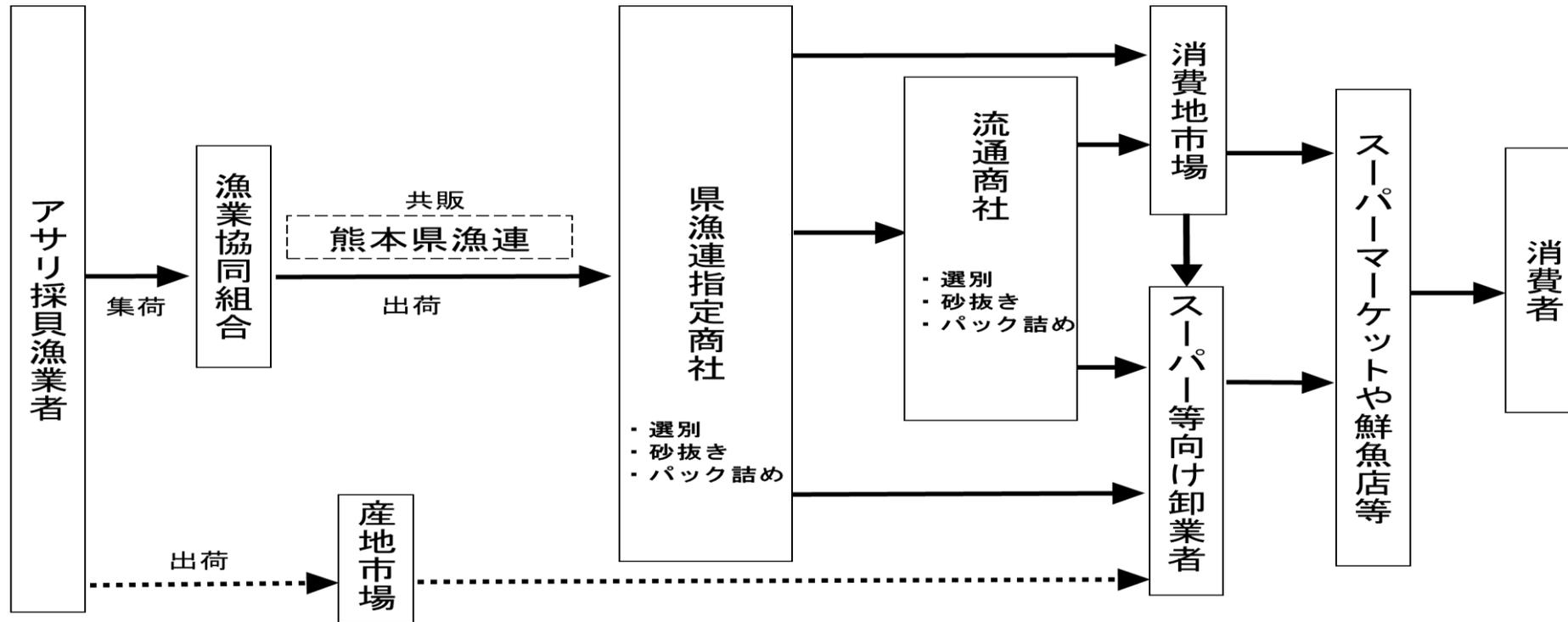


集荷

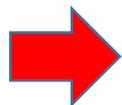
- ① アサリは、漁場の深さや生息状況に応じた漁法により漁獲されている。
- ② 漁獲されたアサリは、漁業者が殻幅12mm以上※となるようユリメ選別し、ネットに12kgずつ入れて漁協に集荷された後、全国へ出荷される。 ※熊本県漁業調整規則により殻幅12mm未満は採捕禁止

アサリの流通について

【県産アサリの主な流通体系】



- ① 県内で漁獲されたアサリのほとんどは、県漁連の入札会で落札後、商社・小売店等を経由して流通される。
- ② 一部は、漁業者により直接産地市場などに出荷され、流通する場合もある。



流通は多様で、流通をトレースできるシステムは確立されていない。

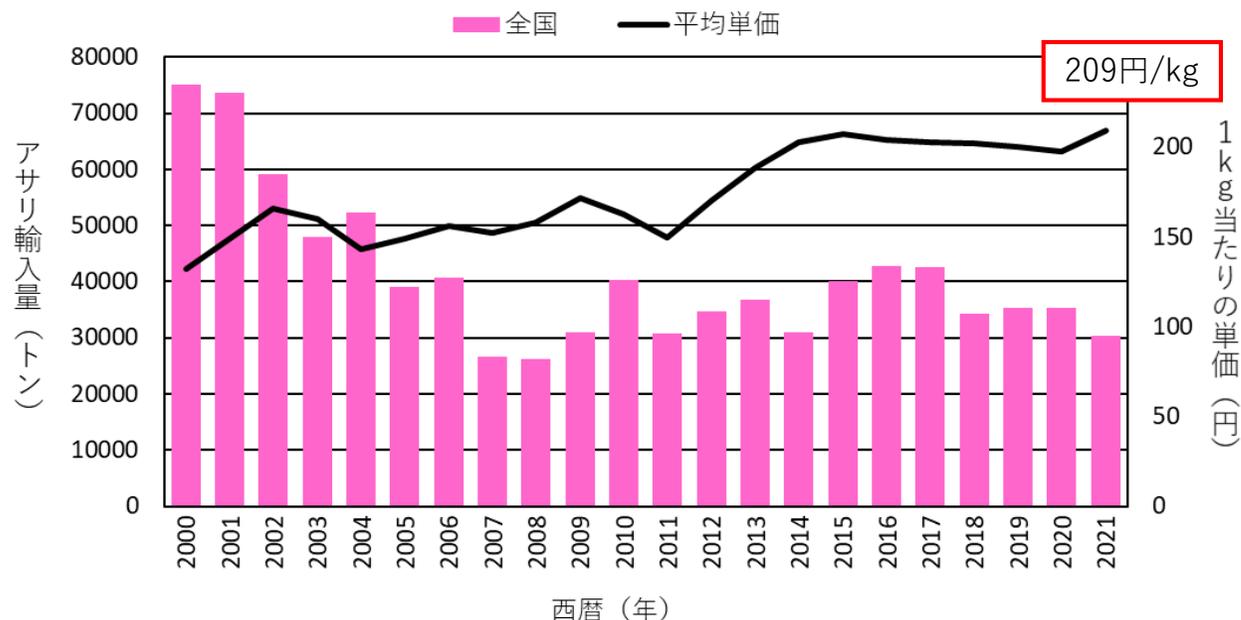
産地偽装に関する経緯と県の対応

【アサリ産地表示の実態調査結果】（令和4年2月1日公表・農林水産省消費・安全局）

- ・ **全国**の広域小売店におけるアサリ推定販売量3,138トンの約80%、**本県の年間漁獲量を大幅に上回る2,485トン**が熊本県産と表示され販売
- ・ 熊本県産として販売されていたアサリの97%は外国産の可能性が高いと判定

「熊本県産」と表示されたアサリが大量に流通

【アサリの輸入量】（財務省貿易統計を基に水産振興課でグラフ化）



- ① アサリの輸入量は、2000年に約75,000トン
を記録した後、緩やかに減少。
- ② 2021年の輸入量は、30,419トンで、中国が
24,666トン(81%)、韓国が5,752トン(19%)。
- ③ 輸入時における平均単価（円/kg）は、
2014年以降は、200円前後で推移。

産地偽装に対する県の対応

- 熊本ブランド全体への信頼を揺るがす危機的状況
- アサリ産地偽装の根絶に向け、以下の対策に取り組む

➤産地偽装をあぶり出すための

熊本県産天然アサリの緊急出荷停止宣言(2月8日から2ヵ月程度)

↳ 各都道府県や流通・販売店など383の団体・事業者へ通知

➤アサリ産地偽装対応ダイヤルの設置

「産地偽装110番」による疑義情報の収集中

- アサリ産地偽装に係る対策徹底に向けた国への要望
- アサリ産地偽装の根絶と風評被害の防止に向けた積極的な広報

➤アサリ産地偽装を防ぐ仕組みづくり

(関係機関一丸となった協議会による検討)

アサリ産地偽装を防ぐ仕組みづくり

◎熊本県産アサリブランド再生協議会の設置

構成：漁業者、販売事業者、学識経験者、弁護士等

内容：
・ 産地偽装抑止策の検討
・ 確実な販路構築
・ 県産活きアサリのブランド力向上 等

産地偽装を防ぐ仕組みを創設

熊本県産の天然活きアサリの出荷を再開

熊本県産アサリブランド再生協議会の取組み

◎現状・課題

- 「熊本県産」と表示されたアサリが大量に流通
- 流通過程が不透明で、正確な産地情報を消費者が確認できない
- 流通が多様で、砂抜き選別などの工程もあるため、牛のような個体識別番号等による流通管理が難しい
- 販売単価が安く、大量に流通するため、コストが高く煩雑な流通の仕組みは難しい
- 「熊本県産」に対する信用度が低下している

熊本県産アサリブランド再生協議会の取組み

◎アサリ産地偽装を抑止する仕組みづくりの検討

- ①産地保証された県産アサリを購入できる販売店を認証する仕組み
- ②流通過程における監視体制の強化を図り、県産アサリを守る仕組み

- 消費者が正確な産地情報を確認できること
- 流通過程が把握でき、不正が防止できること
- 簡易性、経済性に優れ、継続して実施可能なこと

◎ブランド力向上の取組み

産地偽装を防ぐ新たな仕組みの下で流通する「熊本県産アサリ」の
販促フェアの開催

今後のスケジュール

(今後のスケジュール)

○ 第2回協議会

日程：3月上～中旬

内容：具体的な流通販売の仕組みやブランド力向上の取組みの検討

○ 第3回協議会

日程：3月下旬

内容：第2回協議を踏まえた流通販売の仕組みやブランド力向上の取組みの方針決定

※令和4年（2022年）4月以降も、引続き協議会の開催を予定しています